

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

あかね akane

vol.34
2015
Winter

Close Up 土谷総合病院 産婦人科

地域における周産期医療の中核を担う産婦人科
他科と連携して行う子宮動脈塞栓術「UAE」とは

Topics 土谷総合病院 婦人科

すべての人が満足できる出産を目指して



土谷総合病院 産婦人科スタッフ

いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう



医療法人あかね会

理事長挨拶

2015年10月3日、昨年に続き、土谷総合病院病診連携交流会を開催いたしました。今年は、開設20周年となる大町土谷クリニックも参加いたしました。多くの先生方にご列席いただき、ありがとうございました。

厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進しています。地域包括ケアシステムでは、高齢者のプライバシーと尊厳が十分に守られた「住まい」が提供され、その住まいにおいて安定した日常生活を送るための「生活支援・福祉サービス」が整った状態で、専門職による「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」を提供することを目指しています。

ところで、従来型の生産年齢層を対象とした急性期医療とは異なり、高齢者の急性期医療は、傷病の治療・安定化のみに治療目標を定めるのではなく、全体の病態や患者の生活などを総合的に考慮した治療目標を設定して対処することが必要です。高齢者は、急性増悪も含めた急性期においては可能な限り素早く入院し、回復後はできるだけ早く生活の場に退院することが高齢者の介護重度化予防と生活機能低下防止にとって重要です。

地域包括ケアシステムが成功するかどうかは、病気を抱えた高齢者が安心して在宅療養生活を送れるかどうかにかかっていると思います。このためには、かかりつけ医と病院の連携、在宅医療チームと入院医療チームの協同が極めて重要です。諸先生方、今後とも、よろしく、ご指導・ご交誼の程、お願いいたします。

医療法人あかね会
理事長

土谷 晋一郎

Tsuchiya Shinichiro





地域における 周産期医療の 中核を担う 産婦人科

総合病院として
さまざまな症例に対応できるよう
他科との連携をはかり、
真摯に対応しています

●土谷総合病院
産婦人科

現在、産婦人科は、医師5名(土谷治子昭和57年卒 金子朋子平成2年卒 鍵元淳子平成13年卒 桑原良奈平成15年卒 吉本真奈美平成5年卒非常勤)で診療にあたっています。産婦人科病棟は30床(混合病棟になっており11床は他科が使用しています)で、スタッフは助産師19名、看護師1名です。産科および婦人科良性腫瘍を中心に日々の診療を行っております。現在は産科症例の方が婦人科症例よりも多いのですが、婦人科症例も1例1例真摯に対応しております。

当院は、地域における周産期医療の中核として、ハイリスク妊娠・分娩を担う地域周産期母子医療センターの役割を果たしており、地域の周産期医療施設からの母体・新生児の搬入受け入れ等を行っております。

2014年度の分娩件数は365件、そのうち帝王切開81件、母体搬送11件でした。

当院の産科の特徴としては、総合病院として、循環器疾患、腎臓疾患、内分泌疾患合併妊娠に関し、他科と連携をしながら、診療を行っております。循環器疾患では、先天性心疾患合併やその術後、心筋症、冠動脈瘤合併などを、腎臓疾患では、慢性腎

炎、内分泌疾患では、糖尿病、甲状腺機能異常などの合併症妊娠を扱っています。

当院は、広島県で先天性心疾患の手術を行っている2施設のうちの一つで、また広島県で唯一の胎児心臓超音波検査専門施設であり、胎児が先天性心疾患を合併している方の妊娠管理も行っております。小児科と定期的に周産期カンファレンスを行い、胎児の状態について確認し、また娩出時期や娩出方法などについて検討しています。また早産児に対しても対応しております。NICUは12床で、現在は妊娠29週以降・出生時体重1000g以上を受け入れ可能な基準にしておりますが、こちらも、スタッフの育成状況により受け入れ基準を拡大していきたいと考えており、現在小児科の方で検討中です。

帝王切開は全例麻酔科管理で対応しており、安全な周術期管理を行っております。また、合併症のある妊娠症例のみでなく、外来は、通常の妊婦健診に加え、平成23年から助産師外来を開設し、軌道に乗ってきています。分娩に際しては、母児の安全を第1に考え診療にあたっておりますが、妊婦さんのパースプランも確認しております。



産婦人科と 放射線科医が 連携して行う 子宮動脈塞栓術 「UAE」とは

思春期の月経不順や
更年期障害から
他科との協力のもと進める
カテーテル治療まで、
産婦人科の症例はさまざまです

●土谷総合病院
産婦人科

婦人科

良性疾患を中心に診療にあたっております。外来では、思春期の月経不順から更年期障害、また月経困難症や過多月経などを、また手術適応のある良性疾患(子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮脱、子宮内膜ポリープ、子宮頸部異形成など)にも対応しております。手術としては、開腹手術、腔式手術、腹腔鏡手術を行っております。一昨年より子宮内膜ポリープや粘膜下筋腫に対し、子宮鏡下手術も始めています。また子宮筋腫に対する治療の一つとして子宮動脈塞栓術(UAE)も行っており、侵襲の少ない治療法も選択が可能です。

子宮動脈塞栓術(UAE)

産婦人科と放射線科医が協力して行っております。血管造影装置を使用し、カテーテルを動脈の中に挿入し、X線透視装置画面をみながら子宮動脈にまでカテーテルを進め、子宮動脈に塞栓物質を注入し、閉塞させる方法です。子宮動脈は左右ありますが、同じ穿刺部位から反対側の子宮動脈の塞栓も行います。所要時間は約1~2時間です。



▼症例1

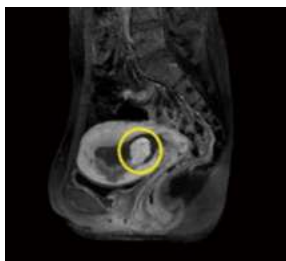


図1



図2

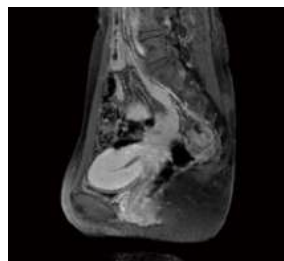


図3

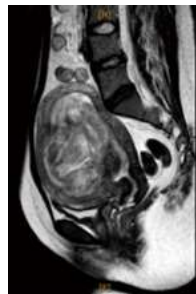
産科では、弛緩出血や遺残胎盤に対して、薬剤投与や子宮腔内タンポナーデ(子宮内にバルーンを挿入する止血法)で止血を得られない方や、子宮温存希望のある方に対し行っております。『産科危機的出血に対するIVR施行医のためのガイドライン2012』において、分娩後出血に対する動脈塞栓術による臨床的成功率は90%前後とされており、当院でも癒着胎盤のため子宮全摘術となった1症例を除いて、止血を得られております。

症例1は、分娩時多量出血を認め、退院後遺残胎盤と判明した症例です。症例2において、MRIにて遺残胎盤と診断し(図1)、UAE(図2)後に子宮鏡下手術(TCR)を行い、その後遺残胎盤は消失しております(図3)子宮鏡下手術前にUAEを行うことにより出血を抑え、安全に手術可能となります。

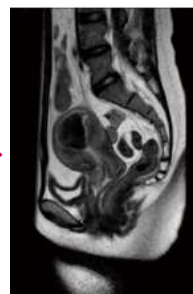
婦人科では、腹部膨満感や過多月経など、症状のある子宮筋腫の方に対して行っております。外科的治療を希望されず、子宮温存を希望される方には、治療の選択肢が広がります。2003年から開始し、2015年10月までに40例経験しています。まず産婦

人科外来で診察、超音波検査を行い、MRIを参考に放射線科医と相談し、適応を決めております。塞栓物質のエンボスフィアが症候性子宮筋腫に対して保険収載されたことにより、症例によっては保険が適応可能となり、患者さんの経済的な負担も軽くなっています。入院期間は、約3~5日となっております。術後、子宮筋腫の大きさの縮小傾向、症状の改善を得られ、また粘膜下筋腫では腫瘍の消失例もあります(症例2)。

▼症例2



UAE前



UAE後



Voice of Staff

患者さまのために 強い“志”を持って支える スタッフがいます

常に笑顔を決やさず
患者さまに安心感を与えることが
医師・看護師としての使命です。
そこで、当院で働く元気いっぱいの
スタッフをご紹介します。

● 土谷総合病院 助産師



一番近くで支えることができる助産師でありたい

私は土谷総合病院に就職して、今年で9年目になります。一昨年、長男を出産し1年2か月の育休を取り、時短勤務で復帰しました。

子育てをしながらの職場復帰に最初は不安でしたが、職場の人間関係も良く、家族の協力もあって毎日楽しく働いています。

自分の「妊娠、出産」という尊い体験を、今度は助産師としてたくさんのお母さんたちに伝えていきたいと思っています。いつまでも、一番近くで寄り添っていただける存在でありたいです。

助産師 砂堀 祐子



一人ひとりの患者さまとの出会いを大切に

今年3月に大学を卒業して助産師になり、土谷総合病院に入職して半年が経ちました。学生時代に実習させてもらい、妊娠中から産後まで継続して母子に手厚い看護がしたいと思い就職しました。まだまだ分からないことばかりですが、真剣にお母さんと赤ちゃんに向き合う先輩たちに教えてもらいながら日々楽しく働いています。

これからも、一人ひとりの患者さまとの出会いを大切にしながら、少しでも先輩たちに近づけるよう頑張ります。

助産師 厚田 志穂

心に寄り添える助産師でありたい

入職して4年になります。前職場では出産の現場で働いていましたが、今は助産外来、保健指導、母乳外来中心で働かせて頂き日々やりがいを感じています。多様化した時代の中で“その人らしさ”、“個に応じた対応”ができる様、まずは受容することを心掛けています。

以前、看護学校に勤務していたこともあり、こちらの病院に来て多くの教え子と再会することができました。皆の活躍ぶりに元気をもらってます。

これからも細く長く邁進できるよう頑張ります。

助産師 国実 明美





妊婦と赤ちゃん、 そのご家族の 全員が満足できる 出産を目指して

私たち助産師は、
「女性の健康を守る人」として
すべての母子のために
ケアの向上に取り組んでいます。

●土谷総合病院
4階北病棟 看護師長 三浦 満



当院は広島市で助産師を看護師ではなく助産師として採用している唯一の総合病院であり、私たち助産師は、産婦人科外来・病棟、NICUで母子の支援をしています。

保健師助産師看護師法で「助産師とは、厚生労働大臣の免許を受けて、助産又は妊婦、じょく婦若しくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子」とあります。しかし、国際的には「女性の健康を守る人」と定義し、女性のライフサイクルの一生を通して助産師の存在は必要とされています。病院勤務では周産期を軸としたケアを求められる事が主であるため、妊娠・出産・産後の母親と新生児へのケアが中心となります。

平成5年以降当院では「助産ケアは助産師に」の方針のもと、助産師数が増え、お母さんや赤ちゃんに助産師のケアを届けたい、助産師の能力を活かした働きをしたいと様々な取り組みをしてきました。一番大きな取り組みはWHO／ユニセフが1989年に共同声明として提唱した「母乳育児を成功さ

せるための10か条」の実践です。母乳育児の成功と聞くとそれだけと捉えられがちですが、この10か条には妊娠期から産褥期にかけて産科医療者が実践すべきことが明確にされており、日々研鑽しています。

平成23年、助産外来をそれまでの保健指導を礎に開設、病棟助産師が担当し、妊娠期からの関わりを通して妊婦とご家族が満足できる出産を目指しています。出産体験がトラウマとなり傷ついた心と体では良い育児のスタートはできず、社会問題となっている乳幼児虐待につながる恐れがあります。そのため、妊娠期からパースプランを考えて頂き、家族で主体的に出産に臨んでもらい、そして出産後、パースレビュー（出産体験の振り返り）で、出産を肯定的な体験としてもらうよう関わっています。

また、出産時に夫が立ち会ういわゆる「夫立ち会い出産」の取り組みは昭和56年の産婦人科開設時から行っており、当時は先駆的な取り組みでした。現在は妊婦さんが望

む方にはどなたでも立ち会いOK(可)なので、小さなお兄ちゃんやお姉ちゃん、おじいちゃんやおばあちゃん等様々な人達が立ち会いされます。娘の出産に立ち会い、妻への感謝の気持ちを言葉にされた方、健康教育の場として上の子を立ち会いさせた方などおられ、意味のある機会にもなっています。出産後は「早期母子接触」と言って母子共に問題がなければ母親の胸にオムツだけの裸の赤ちゃんを乗せて皮膚と皮膚を合わせます。母乳育児、赤ちゃんとお母さんの心身の安定に効果があり母子関係に良い影響を及ぼすと言われ、出産後早期に行えるよう努めています。これは経陰分娩のみならず帝王切開時にも行っています。麻酔科医師や手術室スタッフ、小児科医師の協力のもと、母子の為のケアを実践させて頂いています。

出産は癒しの場とも言われます。赤ちゃん誕生の場に立ち会う事は緊張の連続でもありますが、無事に産まれてきた赤ちゃんに

母乳育児を成功させるための10か条

1. 母乳育児推進の方針を文書にして、すべての関係職員がいつでも確認できるようにしましょう
2. この方針を実施するうえで必要な知識と技術をすべての関係職員に指導しましょう
3. すべての妊婦さんに母乳で育てる利点とその方法を教えましょう
4. お母さんを助けて、分娩後30分以内に赤ちゃんに母乳をあげられるようにしましょう
5. 母乳の飲ませ方をお母さんに実地に指導しましょう。また、もし赤ちゃんをお母さんから離して収容しなければならない場合にも、お母さんの母乳の分泌維持の方法を教えましょう
6. 医学的に必要でないかぎり、新生児には母乳以外の栄養や水分を与えないようにしましょう
7. お母さんと赤ちゃんと一緒にいられるように、終日、母子同室を実施しましょう
8. 赤ちゃんが欲しがるときは、いつでもお母さんが母乳を飲ませてあげられるようにしましょう
9. 母乳で育てている赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないようにしましょう
10. 母乳で育てているお母さんのための支援グループ作りを助け、お母さんが退院するときにそれらのグループを紹介しましょう

一番初めに触れさせてもらう時、助産師は癒されているのだと思います。

そして、出産後は終日母子同室としています。母子異室としていた頃と比較すると、乳腺炎などの乳房トラブルやマタニティブルーが減少しました。確かに24時間赤ちゃんと同室と聞くと「しんどそう」「入院している時ぐらい楽したい」といった声もあります。しかし、退院後になぜ泣いているか分からない赤ちゃんを抱え、母親自身も自信を失い悲惨な状況で電話相談してくる事は母子同室導入後、激減しているのです。今は殆どの母親が退院する時に、自信を持って笑顔で帰っていかれます。この「母乳育児を成功させるための10か条」への取り組みは毎年8月に開かれる母乳育児シンポジウムでも報告させて頂きました。また当院の取り組みは、地元中国新聞のくらし面に取り上げられたこともあります。

一方で当院はNICUを併設している地域周産期母子医療センターとしての役割も

担っています。切迫流産や妊娠高血圧症候群、心疾患や腎疾患合併の妊産婦さん、母体搬送や新生児搬送などの受け入れもしています。高齢妊婦や多様な家族背景・社会的背景にある妊婦など様々なケースへの対応も多く、大変だと感じる事もあります。しかし産婦人科・小児科医師、保健センターや児童相談所などの行政機関とも連携し個々のケースに対応し、助産師として幅を広げる勉強の機会でもあります。

これからも、現状に満足することなく、すべての母子のために周産期ケアの向上に取り組みんでいきたいと思っています。

Tsuchiya Support Section

スタッフ紹介



薬剤部 主任
井上 智博

今回紹介するスタッフは薬剤部主任の井上です。勤続年数22年のベテランで薬の事ばかりではなく、情報システムにも強い優秀な人材です。経費を節約するため他部署から必要のなくなった機器を利用し薬剤部で使用するシステムを作ったり、多彩な能力を発揮しています。仕事の相談をすると必ず親身になってくれ、的確なアドバイスと一緒に問題を解決してくれる献身的な面も持ち合わせています。またお酒の席では、場を盛り上げてくれるサービス精神もあるため、いろんな人から飲み会に誘われることが多いようです。何事にも幅広く知識があるためドクターをはじめ院内の多くのスタッフからの信頼も厚く、あかね会にはなくてはならない存在です。

Column

一枚の写真

ドクターたちの火曜日

この写真は昭和60年頃の写真です。あかね会 前理事長 故土谷太郎(左端)の自宅で朝食をとりながら勉強会をしている写真です。毎週火曜日の朝7時半頃、土谷家に透析担当のドクター達が集まり、透析に関して熱い話をしていたようです。毎週火曜日に行われていたこの勉強会は、場所は変わりましたが今も続いています。



地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

医療法人 河野産婦人科クリニック

産婦人科

理事長・院長 **河野美代子**

1990年11月19日、土谷総合病院を辞し、紙屋町の県民文化センターの向かいに開業致しました。現在、赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる年代のあらゆる訴えの患者様が来られます。ハッピーな妊婦さんだけでなく、女性のがん、望まない妊娠、不妊症、更年期障害、性同一性障害の方など、細かい対応が必要な方も気楽にお出で頂いています。入院病棟を持たない開業医ですので、高いレベルの情報を患者さんに提供できるよう、週二日の休診日には、学会の参加や発表を積極的にしていますし、土谷病院時代から続いて全国に性教育の講演に出かけています。

☎ 082-242-1505 Fax 082-244-9740
 受付時間 / 月・火・水・金・土 9:00~13:00、15:00~18:00
 休診日 / 木・日・祝日
 住所 / 〒730-0031 広島市中区紙屋町2丁目2-25 大野ビル5階



医療法人 あかね会

土谷総合病院

〒730-8655 広島市中区中島町3番30号
 ☎ 082-243-9191 (代)



- **阿品土谷病院**
 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
 ☎0829-36-5050 (代)
- **大町土谷クリニック**
 〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号
 ☎082-877-5588 (代)
- **中島土谷クリニック**
 〒730-0811 広島市中区中島町6番1号
 ☎082-542-7272 (代)
- **介護老人保健施設シエスタ**
 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
 ☎0829-36-2080 (代)

在宅事業部(介護サービス部門)

土谷訪問看護ステーション

光南 ☎082-544-2789	西広島 ☎082-507-0855
大町 ☎082-831-6651	出汐 ☎082-250-1577
佐伯 ☎082-925-0771	

土谷ヘルパーステーション

光南 ☎082-545-0311	西広島 ☎082-507-0877
大町 ☎082-831-6654	出汐 ☎082-250-5080
佐伯 ☎082-925-0770	戸坂 ☎082-502-5205
可部 ☎082-819-2250	矢野 ☎082-820-4825
阿品 ☎0829-20-3585	

土谷居宅介護支援事業所

光南 ☎082-504-3202	西広島 ☎082-507-0866
大町 ☎082-831-6653	出汐 ☎082-250-3730
佐伯 ☎082-925-1550	戸坂 ☎082-502-5215
矢野 ☎082-820-4835	阿品 ☎0829-20-3721

土谷デイサービスセンター

光南 ☎082-544-2885	大町 ☎082-831-6600
------------------	------------------

スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。



土谷総合病院 検索

編集者後記

今年9月、土谷総合病院の北側の床を張り替え、院内がとてもしっかりしました。表紙の写真はそれをバックに撮影しました。土谷総合病院では3年前から少しずつですが改装を行っております。12月中旬頃、新しいロビーベンチが届くことになっており平和公園側から入る時にはより一層、病院の雰囲気が変わっていると思います。

本部事務局



医療法人あかね会 本部事務局

〒730-0811 広島市中区中島町4-11
 ☎ 082-245-9274
<http://www.tsuchiya-hp.jp>
 2015年12月発行